資料５

審　議　事　項

	件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 （※シンポジウム等、後援関係については概要を記載）	説明者	根拠規定等
Ⅰ　審議事項						
１．提言等関係						
提案1	報告「主権者教育の理論と実践」について日本学術会議会則第２条第４号の「報告」として取り扱うこと	政治学委員会委員長	C-1(1-37)	政治学委員会政治過程分科会において、報告を取りまとめたので、関係機関等に対する報告として、これを外部に公表したいため。 **※第一部査読**	政治学委員会政治過程分科会　西川伸一委員長、谷口尚子副委員長	内規3条1項
提案2	提言「工学システムの社会安全目標の新体系」について日本学術会議会則第２条第３号の「提言」として取り扱うこと	総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長	C-1(38-84)	総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 **※第三部査読**	総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会　野口和彦副委員長、安全目標の検討小委員会　中村昌允幹事	内規3条1項
提案3	提言「人類の未来を開くフロンティア人工物工学の展開のために」について日本学術会議会則第２条第３号の「提言」として取り扱うこと	総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長	C-1(85-126)	総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 **※第三部査読**	総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会　大和裕幸委員長、鈴木真二副委員長	内規3条1項

提案4	提言「幼小児期・若年世代からの生活習慣病予防」について日本学術会議会則第２条第３号の「提言」として取り扱うこと	健康・生活科学委員会委員長	C-2(1-43)	臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関に対する提言として、これを外部に公表したいため。 **※第二部査読**	臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会　八谷寛委員長、藤原葉子幹事	内規3条1項
提案5	提言「新学習指導要領下での算数・数学教育の円滑な実施に向けた緊急提言：統計教育の実効性の向上に焦点を当てて」について日本学術会議会則第２条第３号の「提言」として取り扱うこと	数理科学委員会委員長	C-2(44-76)	数理科学委員会数学教育分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 **※第三部査読**	数理科学委員会数学教育分科会　真島秀行委員長、渡辺美智子幹事	内規3条1項
提案6	提言「より良い近未来創造のためのロボット/AIの理解と人材育成」について日本学術会議会則第２条第３号の「提言」として取り扱うこと	機械工学委員会委員長	C-2(77-98)	機械工学委員会ロボット学分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 **※第三部査読**	機械工学委員会ロボット学分科会 川村貞夫委員長、金子真副委員長	内規3条1項
提案7	提言「感染症の予防と制御を目指した常置組織の創設について」について日本学術会議会則第２条第３号の「提言」として取り扱うこと	第二部長	C-2(99-177)	第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第291回幹事会承認済みの提言案について、事実関係に鑑み内容の一部を修正するもの。 **※第二部査読**	第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会 秋葉澄伯委員長、糠塚康江幹事	内規3条1項

２．協力学術研究団体関係

提案8	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	科学者委員会委員長	B(5)	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①西洋中世学会 ②日本教育支援協働学会 ③日本政治法律学会 ※令和2年6月25日現在2,068団体（上記申請団体を含む）	三成副会長	会則36条

３．国際関係

提案9	令和２年度代表派遣について、実施計画の追加・変更及び派遣者を決定すること	会長	B(7-8)	令和２年度代表派遣について、実施計画の追加・変更及び派遣者を決定する必要があるため。	武内副会長	国際交流事業に関する内規第19条2項、21条2項、22条

４．土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和２年度第２四半期】変更分

提案10	公開シンポジウム「科学的知見の創出に資する可視化(4)：6エリアモデルと新たな計算パラダイム」	総合工学委員会委員長	B(10-11)	主催：日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会 日時：令和2年7月4日（土）13：00 ～16：00 場所：ZOOMを用いたオンライン開催 **※第三部承認** **※第288回幹事会承認済みの公開シンポジウムについて、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑みオンライン開催に変更することとし、開催時間の変更を行うもの**	-	内規別表第1

５．その他のシンポジウム等

提案11	公開WEBシンポジウム「シチズンサイエンス・当事者研究が拓く次世代の科学：新しい世界線の開拓」	若手アカデミー運営分科会委員長	B(13-15)	主催：日本学術会議若手アカデミー、公益財団法人日本学術協力財団原田弘二基金 日時：令和２年７月25日（土）13：00～16：00（予定） 場所：オンライン開催	-	内規別表第1
提案12	公開シンポジウム「健康で長生きー未来社会を開くヘルステック・イノベーションー」	第三部長	B(17-18)	主催：日本学術会議第三部会、九州・沖縄地区会議、国立大学法人九州大学 日時：令和２年８月６日（木）13:00～17:40 場所：インターネットによる遠隔開催 **※第三部決定**	-	内規別表第1

提案13	日本学術会議近畿地区会議学術講演会 「未来の語り口：人間は神になれるか」	科学者委員会委員長	B(19-20)	主催：日本学術会議近畿地区会議、京都産業大学 日時；令和2年9月22日（火・祝）13:00～17:30 場所：京都産業大学壬生校地むすびわざ館２階ホール（京都市下京区） **※開催主体が地区会議のため、承認は幹事会のみ**	-	内規別表第1
提案14	日本学術会議東北地区会議公開学術講演会 「人生100年時代の雇用問題（仮題）」	科学者委員会委員長	B(21)	主催：日本学術会議東北地区会議 日時；令和2年9月26日（土） 場所：オンライン開催 **※開催主体が地区会議のため、承認は幹事会のみ**	-	内規別表第1

６．後援

提案15	国内会議の後援をすること	会長	―	以下の会議について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 <u>①第41回日本熱物性シンポジウム</u> 主催：日本熱物性学会 期間：令和2年10月28日(水)～30日（金） 場所：相模原市民会館、相模原市立産業会館（神奈川県相模原市） 参加予定者数：約200名 申請者：日本熱物性学会会長　小原 拓 **※第三部承認**	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ

Ⅱ　その他

	件名	資料(頁)
１．	今後の総会及び幹事会開催予定 次回幹事会は7月9日(木)15時00分開催予定	D(1)

提案８

日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込み団体の概要

	団体名	概　　要
1	西洋中世学会 (https://www.medievalstudies.jp/)	本団体は、日本における西洋中世研究を質量ともに一層進展させるため、「ヨーロッパ中世」にとどまらず、古代末期から近世まで広い視野のもと、テーマの近い研究者同士が議論できる共通の場を作り学際的な研究の発展に資することを目的とするものである。
2	日本教育支援協働学会 (https://kyoiku-shien-kyodo.org/)	本団体は、学校教職員、教育行政職、心理専門職、社会福祉専門職、社会教育関連職、子育て支援職、企業、地域住民が学校をプラットフォームとして「教育支援」を行いながら「教育協働」を進め、社会全体で次世代を育成する営みが求められる、という問題意識のもと、子供を取り巻く諸課題に取り組み、実践・研究・教育の循環を生み出す活動を行い様々な教育の在り方の探究を目的とするものである。
3	日本政治法律学会 (https://politicsandlaw.jimdofree.com/)	本団体は、これまでの日本の政治学、法学の発展、貢献を客観的かつ積極的に評価し、それを次世代の日本や世界の政治学、法学、公共政策学の研究者に伝えることや、さらに強く現実の政策過程に寄与する政治学、法学、公共政策学の発展を志向し、世界の政治学、法学コミュニティに対して独自の貢献を日本から発信することを目指すものである。

提案９

令和２年度代表派遣実施計画の追加・変更及び会議派遣者の決定について

以下のとおり、令和２年度代表派遣実施計画の追加・変更及び派遣者の決定を行う。

	会議名称	会　期	開催地 （国）	派遣候補者 （職名）	内　　容
1	哲学系諸学会国際連合（FISP）運営委員会及び付帯コンフェランス	７月８日 ～ 7月 12 日	ハノイ （ベトナム）	納富　信留 連携会員 （東京大学大学院人文社会系研究科教授）	・派遣時期の変更 ※新型コロナウイルス感染症の影響により延期（来年４月以降に延期）
2	Science20　International Workshop	7月 15 日	オンライン開催	武内　和彦 第二部会員 （公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長、東京大学未来ビジョン研究センター特任教授）	・代表派遣計画の追加 ・派遣者の決定 ※S20　事前準備会合。S20 主催アカデミー（サウジアラビア）からの出席依頼を受け、代表派遣実施計画に追加するもの。
				秋葉　澄伯 第二部会員 （弘前大学特任教授・鹿児島大学名誉教授）	
				郡山　千早 特任連携会員 （鹿児島大学大学院医歯学総合研究科疫学・予防医学教授）	
				森口　祐一 連携会員 （国立環境研究所理事、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授）	
				村山　泰啓 連携会員 （国立研究開発法人情報通信研究機構ソーシャルイノベーションユニット戦略的プログラムオフィス研究統括）	
				新福　洋子 特任連携会員 （広島大学大学院医系科学研究科教授）	

	会議名称	会　期	開催地 （国）	派遣候補者 （職名）	内　　容
3	国際土壌科学連合(IUSS)中間会議	8 月 30 日 ～ 9 月 4 日 ↓ 11 月末～ 12 月中旬	グラスゴー （イギリス）	小﨑　隆 連携会員 （愛知大学国際コミュニケーション学部教授、京都大学名誉教授）	・派遣時期の変更 ※新型コロナウイルス感染症の影響により延期
				波多野　隆介 特任連携会員 （北海道大学大学院農学研究院教授）	
4	第 16 回国際放散虫研究集会	9 月 10 日 ～ 9 月 22 日	リュブリャーナ （スロベニア）	松岡　篤 特任連携会員 （新潟大学教育研究院自然科学系教授）	・派遣時期の変更 ※新型コロナウイルス感染症の影響により延期（1 年延期）

４．土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和２年度第２四半期】変更分

＜概要＞

１．土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

(1) 各年度 32 回まで、及び 四半期ごとにおおむね８回
（ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む）

○今回提案**【令和２年度第２四半期】　全１件**

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所
1	提案９	公開シンポジウム「科学的知見の創出に資する可視化(4):6 エリアモデルと新たな計算パラダイム」	令和２年７月４日（土）	ZOOM を用いたオンライン開催

※第 288 回幹事会承認済みの公開シンポジウムについて、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑みオンライン開催に変更することとし、開催時間の変更を行うもの

（参考）----------

■今回提案を含めた合計数

１．土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等（学術フォーラム含む）全１３件　　残り：１９件
（内訳）

	関連部等	第１四半期（4 月～6 月）	第２四半期（7 月～9 月）	第３四半期（10 月～12 月）	第４四半期（1 月～3 月）
ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ	第一部		1		
	第二部	4	2		
	第三部	1	1		
	若手ｱｶﾃﾞﾐｰ		1		
	課題別				
学術フォーラム（土日）		2	1		
	合計	7	6		

提案１０

※3 月 26 日幹事会承認済みの案件について、オンライン開催へ変更することに伴い、シンポジウムの開催時間を変更するもの

公開シンポジウム「科学的知見の創出に資する可視化 (4)：
６エリアモデルと新たな計算パラダイム」の開催について

１．主　催：日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会

２．共　催：一般社団法人可視化情報学会、一般社団法人日本シミュレーション学会、一般社団法人画像電子学会、一般社団法人情報処理学会コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究会、一般社団法人芸術科学会、公益財団法人画像情報教育振興協会（CG-ARTS）

３．日　時：令和２年７月４日（土）13：00～16：00

４．場　所：Zoom を用いたオンライン開催
配信拠点：慶應義塾大学理工学部矢上キャンパス
（〒223-8522 神奈川県横浜市港北区日吉 3-14-1）

５．分科会の開催：開催予定

６．　開催趣旨：データ可視化は，1980 年代後半に欧米の研究機関から研究開発が開始され，この四半世紀の間，数学や統計と同様に，あらゆる学理に必要不可欠な横断的技術として浸透してきた．それをさらに発展させていくためには，技術固有の計算パラダイムを策定する必要がある．今期に開催した計３回の同名シンポジウムに引き続き，本シンポジウムでは，この分野を国際的に牽引する IEEE/CS/VGTC の VIS 改革委員会（reVISe）が，領域の再構成とさらなる発展を目指して昨年 10 月に発表した「6 エリアモデル」に焦点をあて，各エリアで先端的な取り組みを展開している講師陣を招き，参加者とともに同モデルを再吟味し，日本独自の解釈を与えるとともに，新しい計算パラダイム像へと結びつけていきたい．

７．次　第：
13：00　開会挨拶
小山田　耕二（日本学術会議会員，京都大学学術情報メディアセンター教授）
13：05　6 エリアモデルの紹介と趣旨説明
藤代　一成（日本学術会議連携会員，慶應義塾大学理工学部教授）
13：15　各エリアの紹介（前半）
司会：藤代　一成（日本学術会議連携会員，慶應義塾大学理工学部教授）
エリア１：可視化の理論と実践
講師：高橋 成雄（会津大学コンピュータ理工学部教授）
エリア２：可視化応用
講師：大林 茂（東北大学流体科学研究所教授）
エリア３：可視化システムとレンダリング
講師：斎藤 隆文（東京農工大学工学府情報工学専攻教授）
14：15－14：25　（ 休憩 ）
14：25　各エリアの紹介（後半）
司会：田中　覚*（日本学術会議連携会員，立命館大学情報理工学部教授）
エリア４：可視化における表現と対話
講師：五十嵐 健夫（東京大学大学院情報理工学系研究科教授）

エリア５：データ変換と可視化
講師：清木 康（慶應義塾大学環境情報学部教授）
エリア６：可視化ワークフローと意思決定
講師：高間 康史（東京都立大学システムデザイン学部教授）
15：25　パネル討論「6エリアモデルから新しい可視化パラダイム像を探る」
ファシリテータ：藤代　一成（日本学術会議連携会員，慶應義塾大学理工学部教授）
討論者：講演者・司会者・分科会・小委員会※選抜メンバー
※可視化の新パラダイム策定小委員会、ICT 時代の文理融合研究を創出する可視化小委員会
15：55　閉会挨拶
萩原　一郎（日本学術会議連携会員，明治大学研究・知財戦略機構・特任教教授）

16：00　閉会

８．関係部の承認の有無：　第三部

（下線の講演者等は、主催委員会(分科会)委員）

提案１１

公開 WEB シンポジウム「シチズンサイエンス・当事者研究が拓く次世代の科学：新しい世界線の開拓」の開催について

１．主　催：日本学術会議若手アカデミー、公益財団法人日本学術協力財団原田弘二基金

２．共　催：なし（予定）

３．後　援：なし（予定）

４．日　時：令和２年７月 25 日（土）13：00～16：00（予定）

５．場　所：オンライン開催

６．分科会の開催：開催予定（若手アカデミー運営分科会）

７．開催趣旨：シチズンサイエンスは一般の人々によって行われる科学研究を指し、その活動は世界的に拡大しつつある。当事者研究は、北海道浦河町における「べてるの家」に集う精神疾患を抱えた当事者の活動から生まれたエンパワメント・アプローチであり、当事者の生活経験の蓄積から生まれた自助と自治のツールである。これらはどちらも「科学の専門家ではない市民」が知を体系化する取り組みと定義できる。これまで人類は、対象に関心を持ち、問いを立て、仮説を構築し、それを検証する営みを絶えず行ってきた。しかし、学術が制度化される中で分業が進み、これらの営みは科学の専門家が行うものとして囲い込まれ、専門家－非専門家の分断を生み出した。そして、この分断は「物事を客観的に判断することができる理性的な人」で成り立つ「市民社会」の基盤を脅かし、ポスト真実の時代において、この問題がますます顕著になっている。昨今のコロナ禍も、この分断を可視化し、科学の専門家が構築した知識体系と、社会にある知識体系の乖離を自明のものとした。それと同時に、急激に進められた ICT の活用、技術の発展は、その分断を繋ぎうる機会ともなり得ることを障がい当事者の研究者が Nature 誌に寄稿し、世界からも注目されている。これまで、若手アカデミーは国内におけるシチズンサイエンスの普及を目的とし、様々な活動を行ってきた。その背景として、競争的サイエンスから共創的サイエンスへの移行の促進がある。今回、当事者研究の視点を組み入れることで、若手アカデミーが推進するシチズンサイエンスを拡充し、現代社会の課題である「分断された知」の架橋を試みる。そして、それを次世代の科学を拓くツールとし、ポストコロナの世界を見据えた新しい世界線を開拓することを企画の趣旨とする。

８．次　第：（予定）

13：00　挨拶

岸村　顕広（若手アカデミー代表、日本学術会議連携会員、九州大学大学院工学研究院応用化学部門・九州大学分子システム科学センター准教授）

13：05　趣旨説明

新福　洋子（若手アカデミー副代表、日本学術会議特任連携会員、広島大学大学院医系科学研究科教授）

13：15　講演「当事者活動の歴史における『当事者研究』の位置と意義」

熊谷　晋一郎（東京大学先端科学技術研究センター准教授）

13：45　講演「学術・精神医学の歴史における「当事者研究」の位置と意義」

石原　孝二（東京大学大学院総合文化研究科准教授）調整中

14：15　休憩

14：25　講演「対人支援・ソーシャルワークの歴史における『当事者研究』の位置と意義」

向谷地　生良（社会福祉法人浦河べてるの家理事）調整中

14：55　講演「障がい者が体系化した知の実践－ノーマライゼーションを目指した日用品の開発－」

星川　安之（公益財団法人共用品推進機構専務理事・事務局長）

14：55　休憩

15：05　総合討論（パネルディスカッション）

講演者に加え、パネリストの参加を検討中

16：00　閉会

９．関係部の承認の有無：

１０．申し込み方法・連絡先

髙瀬　堅吉（若手アカデミー幹事、日本学術会議連携会員、自治医科大学大学院医学研究科教授）

渡部　麻衣子（自治医科大学大学院医学研究科講師）

gen_ed@jichi.ac.jp

（幹事会への提案が直前となったことについて）

新型コロナウイルスの影響で、関係者間で日程の調整がつかず、さらに、開催方法などを再度検討することとなったため、幹事会への提出が遅れました。申し訳

ございません。

提案１２

公開シンポジウム「健康で長生きー未来社会を開くヘルステック
・イノベーションー」の開催について

１．主　催：日本学術会議第三部会、九州・沖縄地区会議、国立大学法人九州大学

２．後　援：福岡県、福岡市、日本バイオマテリアル学会、公益社団法人　高分子学会、
公益社団法人日本化学会九州支部、日本 DDS 学会等（予定）

３．日　時：令和２年８月６日（木）13:00～17:40

４．場　所：インターネットによる遠隔開催

５．分科会等の開催：開催予定（日本学術会議第三部会議）

６．開催趣旨：　来るべき高齢社会に、我々が健康に暮らすための新しい技術を生み出す「ヘルステック」は世界的に最も期待の高い技術分野である。一方、今後多様化していく超高齢社会において、現在のような疾患にのみ目を向けた治療法や、技術偏重だけで本当の幸福が提供できるのかという問題意識も生じてきている。来るべき社会において、本当の幸福とは何かに立脚した社会の価値創造は可能なのかを考えなければならない。また、新型コロナウイルスのパンデミック問題に直面する中で、緊急時における科学の役割、科学への接し方などについても社会と一体となってあらためて考えるべき時に来ている。

　現在のヘルステックは、データ解析やアプリ、画像解析、診断解析などＩＴ技術が中心となっている。今般のコロナ対応の中でも、これら新技術の活用は世界各国で行われたが、個々人の権利への干渉や社会生活にも変容をもたらしかねない問題もはらんでいる。そのような中で、今後、新しい健康情報の取得技術、あるいは、現在のヘルステック技術から解明される健康情報をふまえ、健康な生活を維持できるための、人に優しい新しい技術が必要とされる。これからの来るべき社会を担う新しい価値の創造には、倫理面や幸福論まで踏まえた新しいヘルテック分野の創出が必要であろう。今後、真のイノベーションを生み出していくためには、産業界と学術界がより密接に連携できるような新しい基礎研究の方法論が必要となる。そこで、本シンポジウムでは、独自の研究成果を生み出している研究者や高齢社会を踏まえた価値創出に携わる研究者の講演を通して、これからの社会を支えるヘルステック研究は、何を生み出し、どうあるべきか、モノづくり分野において真の価値を生み出せる研究のあるべき姿を議論したい。

７．次　第：

13：00　主催者挨拶

開会挨拶：久保 千春（九州大学総長）

日本学術会議第三部・部長挨拶：大野 英男
（日本学術会議第三部会会員・部長、東北大学総長）

世話人挨拶：谷口倫一郎
（日本学術会議第三部会会員・九州・沖縄地区会議副代表幹事、九州大学システム情報科学研究院教授）

13：20　基調講演：「ナノメディシンが拓くヘルスイノベーション」
片岡 一則（日本学術会議第三部会会員、公益財団法人川崎市産学振興財団・ナノ医療イノベーションセンターセンター長）

14：10　講演：「ナノの力で光を操るバイオイメージング」
玉田 薫（日本学術会議連携会員・九州・沖縄地区会議、九州大学先導物質化学研究所主幹教授・副理事）

14：50－15：10　（　休憩　）

15：10　講演：「化学プローブを精密にデザインして癌を光らせる！」
神谷　真子（東京大学医学系研究科准教授）

15：40　講演：「人間のテクノロジーに対する適応能力からみたヘルステックイノベーションのあるべき姿」
村木　里志（九州大学芸術工学研究院教授）

16：10－16：20　（　休憩　）

16：20　総合討論
メインテーマ「科学技術と社会、倫理：ポストコロナ時代を乗り越えるヘルステックの迅速な社会実装に向けた「共創」について考える」
（司会）
君塚 信夫（日本学術会議第三部会会員、九州・沖縄地区会議代表幹事、九州大学大学院工学研究院主幹教授）
（話題提供）
「社会の中の科学・社会のための科学」
小林 傳司（日本学術会議第一部会会員、大阪大学名誉教授）

コメンテーター
片岡 一則（日本学術会議第三部会員、公益財団法人川崎市産学振興財団・ナノ医療イノベーションセンターセンター長）
玉田 薫（日本学術会議連携会員、九州・沖縄地区会議、九州大学先導物質科学研究所主幹教授・副理事）
村木 里志（九州大学芸術工学研究院教授）
神谷　真子（東京大学東京大学医学系研究科准教授）
小林 傳司（日本学術会議第一部会員、大阪大学名誉教授）

17：30　閉会挨拶
山極 壽一（日本学術会議第二部会会員・会長、京都大学総長）

17：40　閉会

８．関係部の承認の有無：第三部

（下線の講演者等は、主催委員会(分科会)委員）

提案１３

日本学術会議近畿地区会議学術講演会
「未来の語り口：人間は神になれるか」の開催について

１．主　催：日本学術会議近畿地区会議、京都産業大学

２．後　援：公益財団法人日本学術協力財団（依頼予定）

３．日　時：令和2年9月22日（火・祝）13：00～17：30

４．場　所：京都産業大学壬生校地むすびわざ館２階ホール（京都市下京区）

５．開催趣旨：
AIとIoTの発達による(狩猟社会、農耕社会、産業社会、情報社会に続く) Society5.0と呼ばれる現代、人間の能力は神をも超えようとしているかに思われる。他方で、人口（過剰・収縮）問題、環境問題はじめ人間をとりまくさまざまなリスク問題が、地球規模の課題として浮上しつつあるのも事実である。
今回の学術講演会では、こうした新たな技術の発展のなかで、私たちがいかなる未来を構想しうるのかをめぐって議論を深めたいと考える。特に、未来の主人公たる高校生や大学生にも広く参加を呼びかけてみようと考えている。

６．次　第：
総合司会：髙山　佳奈子（日本学術会議第一部会員・京都大学大学院法学研究科教授）

（１）開会挨拶
伊藤　公雄（日本学術会議第一部会員、近畿地区会議代表幹事・京都産業大学現代社会学部教授）

（２）日本学術会議会長挨拶
山極　壽一（日本学術会議会長、第二部会員・京都大学総長）

（３）趣旨説明
小林　傳司（日本学術会議第一部会員・大阪大学名誉教授）

（４）講演
講演１　「フューチャー・デザイン：持続可能な社会を引き継ぐために」
原　圭史郎（日本学術会議特任連携会員・大阪大学大学院工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター教授）

講演２　「ＡＩを活用した社会構想と政策提言」
広井　良典（京都大学こころの未来研究センター教授）

講演３　「食とリスクの視点からみた未来」
新山　陽子（日本学術会議連携会員・立命館大学食マネジメント学部教授）

講演４　「Society 5.0が描く未来」
東野　輝夫（日本学術会議第三部会員・大阪大学大学院情報科学研究科教授）

講演５　「変容する情報社会と未来の構想：ポスト・ヒューマンの時代とは」
遠藤　薫（日本学術会議第一部会員・学習院大学法学部教授）

（5）全体討論
　コーディネータ：小林　傳司（再掲）

（6）閉会挨拶
小山田　耕二（日本学術会議第三部会員・京都大学学術情報メディアセンター教授）

7．備考
　新型コロナウィルス感染症の状況次第では、延期、中止又は開催方法の変更の措置を検討するものとする。

8．関係部の承認の有無：科学者委員会（仮）

※下線の登壇者は、主催地区会議の会員・連携会員

提案１４

日本学術会議東北地区会議公開学術講演会
「人生100年時代の雇用問題（仮題）」の開催について

１．主　催：日本学術会議東北地区会議

２．共　催：未定

３．後　援：未定

４．日　時：令和2年9月26日（土）

５．場　所：オンライン（予定）

６．開催趣旨：

学校を卒業すると同時に正社員として就職し、定年まで同じ会社に勤めあげて、定年後は退職金と安定した年金でゆとりある生活を送るという日本型雇用慣行は弱体化している。年金の支払開始時期も遅くなっている。卒業と同時に就職できない人々、正社員になれない人々、キャリアの途中で転職する人々、定年後も再雇用で働く人々が増えている。この雇用の不安定化のため、非正規雇用者の増大、中高年フリーターの増大、結婚できない人々の増大、老後貧乏の問題など、さまざまな社会問題が生じている。本講演会では、このような社会の変化と社会問題の発生を背景として、現代日本の雇用問題の実態と解決策について議論を深めていく。

７．次　第：

司会進行：佐藤　嘉倫（日本学術会議会員、東北地区会議運営協議会委員、東北大学大学院文学研究科教授）

（１）開会挨拶

渡辺　美代子（日本学術会議副会長、国立研究開発法人科学技術振興機構副理事）

厨川　常元　（日本学術会議会員、東北地区会議代表幹事、東北大学大学院医工学研究科教授）

（２）講演

①白波瀬　佐和子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）
雇用と社会保障（仮題）

②太郎丸　博（京都大学大学院文学研究科　教授）
若年層の雇用問題・結婚問題（仮題）

③高橋　満（東北大学大学院教育学研究科　教授）
雇用問題を乗り越えるためのリカレント教育（仮題）

④佐藤　嘉倫（再掲）
雇用問題とソーシャル・キャピタル（仮題）

（３）質疑応答

（４）閉会挨拶

未定

８．関係部の承認の有無：科学者委員会（仮）

※下線の登壇者は、主催地区会議の会員・連携会員